

私の決意

蔣 美玲

もし人間を先見の明をもつ者のプロメテウスと後で後悔する者のエピメテウス、二種類に分けるなら私は後者に属するかもしれない。

というのは、私はいつも事後、もしあの時もっと考えればよかったのにとかもっと勇気があればよかったのにとか思っているからだ。

大学の時、私はいつも考えていた。高校に戻ればよかったのにと。このような考えをしなない者もいない。今まで走って来た道を振り返ったら高校の生活が一番楽しかったと断言できる。でも、私にこんなふうに考えさせたのは何より大学生生活がつまらなかったからだ。

高校三年間あまり勉強しなかったせいで、入りたい大学に入れなかった。もう一年勉強したらと周りの人達がアドバイスしてくれただが、また失敗したらどうしようと怖くてやる勇気がなかった。そうして、大学生活は文句ばかり言っただらだら過していた。

そして、何もしない状態で大学四年生から私はある会社で働き始めた。この会社の仕事は私が大学で学んだ専門と全然違う仕事だった。入りたい大学に入れなかったのも専門も適当に決めたのだ。それで後悔ばかりしているうちにこの専門が嫌いになったのがもしもない。そしてこの仕事も、好きだからこの会社に入ったということでもなかった。偶然私が仕事を探している時募集していて給料も高かったからだ。会社で働いている時も私はいろんなことを後悔していた。

でも、あるきっかけで私は人生について考え始めた。私は本当はどんな人生を過ごしたいのか。

私は子供の時同齡の子よりちょっとだけ勉強がよくできるという理由で周りの大人に私は人生で成功できる可能性がある子供だとしばしば言われた。こんな洗脳のせいか、私もだんだんそうだと信じてしまった。実は普通の子なのに、いつからか満足という言葉が私

からだんだん遠くへ行っ てしまっ た。今私を
変えたいなら、そろそろ目を覚まして現実に
直面することだ。

可能性という言葉は無限に使っ てはいけな
い。私は薬剤師になれるか。私は野球選手の
エースになれるか。私はパイロットになれる
か。私は必殺技で世界を救う英雄になれるか。
多分なれない。でも、そんな存在しないこと
に引きつけられてはいけない。今の自分以外、
私はいかなる別人にもなれないことを理解す
ることが必要だ。

私はまず"冷静に、今までの人生を「自分」
の視点ではなく「第三者」の視点で私を見た。
すると妙な気分になっ ても、と客観的に自分
を見ることができた。私が以前何をしてても後
悔したのは私がエピメテウスタイプの人たか
らでもない、勇気がなかつ たからでもない、
入りたい大学に入れなかつ たからでもない、
ただ周りの人達の期待が高くてその期待に応
えられなかつ たからだ。周りの人達に私は立

派な人だと評価された。でも、周りの人はどうせ他人だ。人間は他人のことをあまり一生懸命考えない。他人についての期待も周りの雰囲気の流れに流されて適当に言っただけだ。他人の目のために私の人生を苦しんで過ごす必要があるか。これは私の人生だ。私が得た答えは「そうする必要はない」だった。

人生は一回だけだ。死に直前する日が来るのを絶対忘れてはいけな。だから私は今を生きているんだ。そして人生は短い。一分一秒も貴重で浪費してはいけな。だから私は周りの人達の「どうしてそんなに高い給料の仕事をやめて日本へ行くの」という非難を背にして夢に見た日本へ来た。

今私は毎日を大事にして楽しく過ごしている。もう過去は振り向かず、前を見て歩いていく。人生の中で一番美しい日は私達がまだ過ごしていない日である。パンドラがゼウスがくれた箱を開けたから後悔は人間の本性になっただけけれど、まだ希望がのこったから、希

望を持って美しい人生を作ろう。